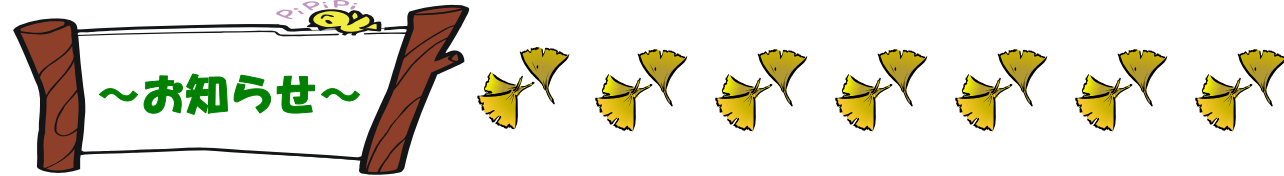


～リハビリ通信～



お揃いのTシャツで踊りました!

作業療法の活動のひとつとして取り組んでいるダンスグループが10月20日に行われた運動会で日ごろの練習の成果を披露してくれました。大勢の前での発表に緊張する方もいるのでは?と思いましたがメンバーひとりひとりが堂々としており素晴らしいダンスでした。気がつくと一緒に踊っているスタッフもいるほど。現在も新しい曲に合わせて先生と一緒に楽しく練習しています。



♪新しい制度がスタートします

2008年度(平成20年)4月から高齢者の方々の医療保険が変わります。75歳以上の方全員が「後期高齢者医療制度」の対象となります。詳細につきましてはパンフレットをご用意しております。お気軽に地域医療連携課までご連絡ください。

♪新しい保険証をご提示ください

古い保険証から新しい保険証に切り替わった方は新しい保険証を医事課へご提示ください。また、保険証が変更になったときは、すみやかにご提示ください。

♪ボランティアさん募集

当院では入浴後のドライヤーかけや手芸、書道などを患者さまと一緒にやってくださるボランティアさんを募集しています。お時間のとれる方は是非ご連絡ください。

地域医療連携課 福田



うきうき編集後記

朝、ふとんから出られない季節になってきました。毎日寒いですね。先日、仕事から帰り家のこたつでうたた寝をしていたところ、異常に寒い、頭がふわふわする。熱を測ってみると39度6分!!おかげで次の日仕事を休んでしまいました。ふ～、きつかった～!みなさんもきちんと風邪対策していますか?(もちだ)



近所にミカンがなっていました。

もりのたより



〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町大字和泉 704

TEL:0493-56-3191/FAX:0493-56-4831

昭友会ホームページ: <http://www.kokoro.or.jp>

埼玉森林病院院長就任にあたって

この度、医療法人昭友会の母体である埼玉森林病院の院長に就任いたしました。創立30周年を迎えたこの時期に院長に再び就任しましたことは感慨深くもあります。30年前に滑川町の方々に暖かく迎えられ、劣悪だった精神科医療の療養環境改善に努めようとハード面・ソフト面の両方から病院づくりに勤しんでまいりました。鉄格子のない病院作りに心がけ、増床、改築、病棟増築、給食センターの設立、森林公園クリニックをはじめとする地域に根ざした3つのサテライトクリニックの開院など目まぐるしい展開を行ってきました。ソフト面では精神科療法、作業療法、薬剤指導、栄養指導を中心に内科や歯科とも連携を取りチーム医療の提供を行ってきました。昨年度からは、病院機能評価の取得に取り組み、医療の質の改善にあたってきました。

近年、精神科医療で大きな課題とされているのは長期入院患者の社会復帰問題です。社会生活が可能であるにもかかわらず、住居や就労の環境が整わないため退院が妨げられることがあります。当院では作業療法にも地域生活を想定した活動を盛り込んでいます。一方で、退院の近い患者様に対し、積極的に退院前訪問指導を取り入れ、在宅生活の不安を取り除くようにしています。退院後も通院、訪問看護やデイケアの利用などを通して患者様のサポートをしていける体制をとっています。また、家族懇談会の実施、広報誌の発行など地域への働きかけも盛んになりつつあります。

『患者様のために親身でハートフルな医療』という病院理念のもと、良質な医療、地域に開かれた公正な医療、チーム医療と安全な医療環境の3つの基本方針を実施すべく、皆様のご支援を受けながら職員共々、更なる成長を遂げていきたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

医療法人 昭友会 理事長 工藤 浩三
埼玉森林病院 院長



副院長就任の挨拶

副院長就任に当たって

埼玉森林病院 副院長 松尾淑子
(看護師)

この度、埼玉森林病院に副院長として就任致しました。私は長い間、医療の現場で働いてきましたが、近年、医療状況は急速に変化しています。これは医学・医療技術の高度化と高齢化社会の医療・福祉制度の整備に伴い生じた、人、物、それに掛かる費用の増大や、より安全な医療をという方針のため、やむを得ない変化といえます。国は、入院日数の削減、ベッド数の削減の推進や、専門性を生かした病院毎の役割分担や、地域連携医療、在宅医療・看護・介護・リハビリテーション等次々に施策を展開しています。一方で医療機関や施設では、医師や看護師などの不足、診療報酬の低減に頭を悩ませています。

この状況の中で当院が生き残り、更に発展していくためには、マグネット病院を目指して、職員が同じ価値観を持ち、一致団結して努力することが大切だと考えています。マグネット病院とは患者様が「入院して治療を受けたい」と思い、職員が「働きたい」と思い、人々が磁石に吸い寄せられるように集まる病院です。その実現のためには、当面三つの課題があると思います。

- 1 患者様に選ばれる病院であること(安全・効果的な治療・患者様満足・社会復帰支援等)
- 2 職員が愛し続ける病院であること(職務にプライドを持つ職員の育成)
- 3 安定した経営状態の病院であること(収支のバランス・職員の確保・必要な設備投資)

それぞれの課題について、実行可能な計画を立て、着実に実践の効果を上げていけたらと思っています。私は精神看護の領域は究極の専門性を要する分野だと思っています。知識、技術、思いやりの心、そして何より経験から生まれる観察、判断等やればやるほど奥深いものだと思います。そして現代は精神疾患のみならず予防やメンタルヘルスケア等、病院外でもニーズが高まっています。私たち職員が、同じ方向を向いて歩んでいこうと思います。プライドを持って病める人々のために、自己実現のために、病院が真に地域に役立つために。



今月のくすいばこ

『統合失調症について』

診療部長 鈴木貴勝

「統合失調症」とはどのような病気なのか、どのようにして治してゆくのか、そして社会復帰に必要なことは何かなどについて説明したいと思います。

この病気はおよそ100人に1人の割合で発症するといわれています。ほかの病気と比べても決して低い割合ではなく、特別な病気ではないということです。また、病気が出始める時期は10代後半から30代頃までが最も多いとされています。では一体何が原因で病気になるのか？それは脳の中のホルモン(伝達物質)の量が過剰になるためです。このため神経が過敏となり、幻聴や妄想などさまざまな症状が出現します(急性期症状)。そして、過敏の時期が過ぎても神経の疲労が残り、意欲低下や集中力低下など(慢性期症状)が続くことがあります。

次に治す方法ですが、脳のホルモンバランスを整える作用のあるお薬を飲むことが基本となります。また、家族を含めた周りの者が本人の辛さや症状を理解してあげるといった心理的サポートも大切です。この2つがしっかり継続出来る状況にあれば、一人で生活する、仕事をするといった社会復帰も十分に可能です。ただし、そこに至るまでには時間がかかることもあります。本人も家族も治療者も、みんなが気持ちにゆとりを持ってゆっくり焦らず進むことがこの病気にとって最も大事になります。



第二回家族懇談会



平成19年9月15日(土)に第二回家族懇談会が開催されました。今回は31家族43名の参加で、前半は薬局長による薬物療法についての講義、後半は病棟別の懇談会を行いました。懇談会ではご家族様同士の悩み事や病院に対するご意見も聞かれ大変有意義な時間となりました。次回家族懇談会は平成20年3月1日(土)に開催します。

